

## 牧之原市子ども読書活動推進計画

## 1 一次計画の概要

本市の計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき平成18年度から22年度までの5年間策定され、その間に必要に応じて見直しを行うこととしていた。この計画では、子どもが自主的に読書活動を行える環境を整備することを目的とし、そのための施策の方向性や具体的な取組の主な項目には以下のものが掲げられている。

## ①家庭・地域における子どもの読書の推進

- ・図書館の整備・充実
- ・家庭・地域への呼びかけ
- ・おはなし大会・県民カレッジ参加
- ・地域における子ども読書推進団体への支援

## ②各園・各学校における読書活動の取組

学齢ごとの役割について認識を共有し、必要な施策を考える。

- ・保育園・幼稚園 「絵本の楽しさと豊かな心を育むこと」ほか  
保護者に絵本の良さ、楽しさ、読み聞かせの大切さを知ってもらうための働きかけ、等
- ・小学校・中学校 「読書環境の整備、意欲を育てる」ほか  
学校図書室と市立図書館の連携、読み聞かせ会の実施や家庭保護者への啓発、等

## 2 関係各課による取組の評価

## (1) 幼稚園・認定こども園&lt;子ども子育て課&gt;

(坂部保育園・牧之原保育園・相良こども園・地頭方こども園)

「本とともにだち」リーフレットを活用している園や絵本コーナーに工夫を凝らす等、読書活動に積極的に携わる現状が見られた。一方で、職員の研修機会を増やし、絵本について、また民話等の伝統文化について知見を広げていきたい等と意欲ある姿もあった。

## (2) 小学校・中学校&lt;学校教育課&gt;

## ・小学校

朝読書の時間を活用して教員・ボランティアによる読み聞かせの実施や授業のなかで学年に応じた推薦図書を紹介する等のいくつかの取組を講じているが、日常的な読書活動に結びつかない児童もいる。学校司書による計画的な図書の整備と管理について勤務時間に限りがあり、進捗が難しい現状である。

## ・中学校

図書委員によるおすすめ本の紹介等、学校図書室が生徒の活動場所となっているが、朝読書を取り入れる時間がなくなり、読者活動の取組に個人差が生じている。本を手にする機会を増やすため環境づくりを進めているが、小学校と同じく勤務時間が限られた学校司書による図書の整備と管理は捗らないことがあり厳しい。

(3) 家庭＜福祉相談課＞

(子育て支援センター・児童館)

ブックスタートや児童館の読み聞かせ等参加率を上げていくための工夫を重ねている。保護者への情報提供として本の貸出も行い、本への関心を促す機会を作っている。

(4) 市立図書館＜社会教育課＞

(図書交流館・文化の森図書館・移動図書館)

令和3年図書交流館「いこっと」、令和6年文化の森図書館「いろ葉」のオープンにより、施設面の強化が図られ、オンラインシステムの構築も出来ている。令和3年には市内で活動する読書活動ボランティアをまとめた「市民読書活動推進団体よもーね！まきのはら」が発足し、住民が参加する図書館として確立できたことも大きな成果である。2つの図書館は、人が交流し滞在する図書館として、市内外に定着している。

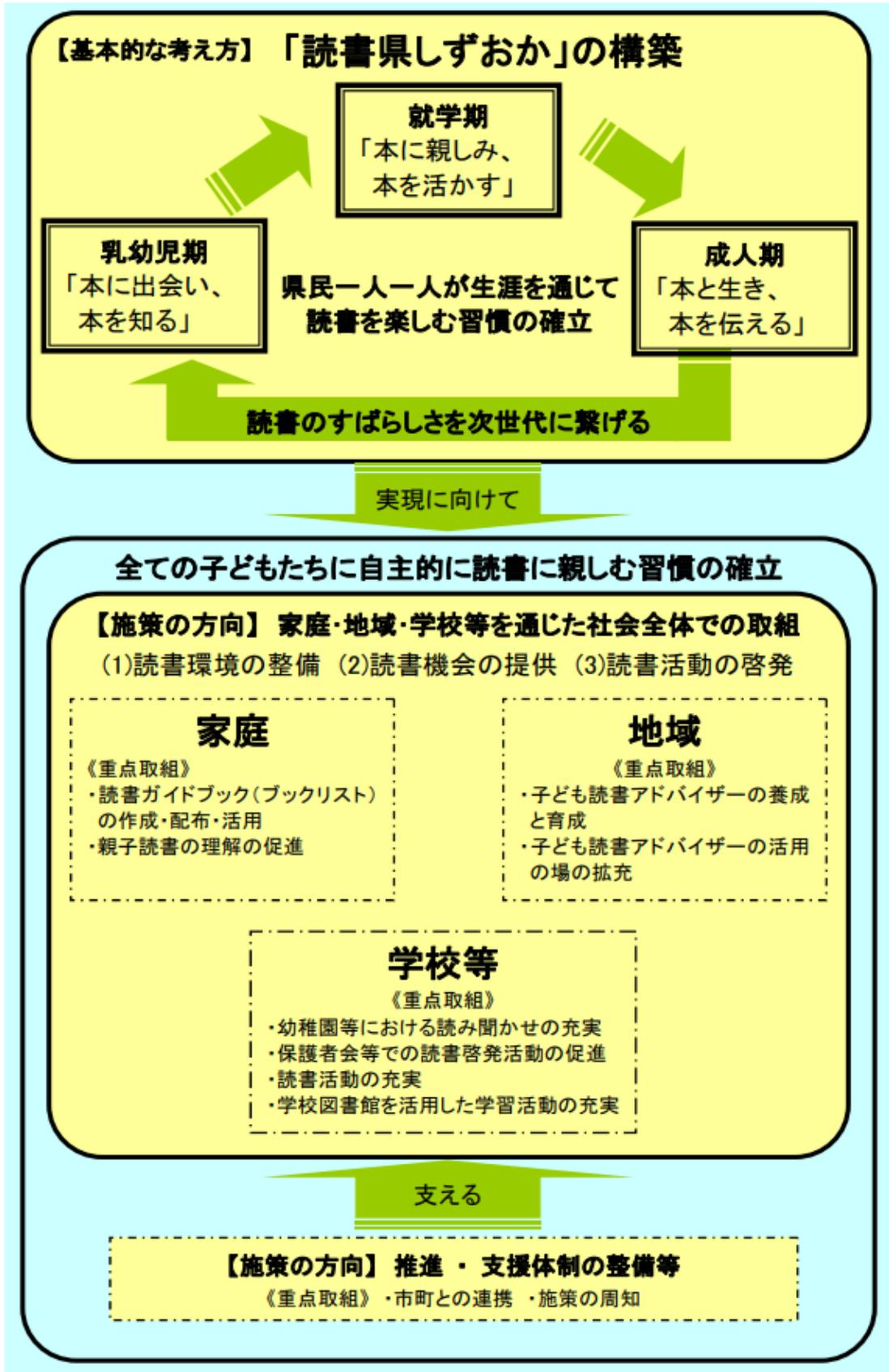
子育て現場、学校現場にて連携すべき活動の定着化が進み、今後は図書館スタッフの更なるスキルアップが期待されている。

### 3 まとめと展望

平成22年の事業評価以降、社会情勢の変化が著しく、特に新型コロナウイルス感染症の拡大は社会の変革を伴うもので、とりわけ学校等での教育活動時間のひっ迫は、子どもたちの学習機会に大きな変化を与えた。また、スマートフォンの普及やネット動画の普及等子どもたちの家庭生活にも影響がある時代となっている。厳しい世相であるが、一次計画に取り上げた家庭や学校等での取組は、教員職員の丁寧で絶え間ない姿勢によって日々の現状に合せ継続され成果を上げている。

今後は、子どもたちの読書活動の現状分析を行い、新たな課題について情報を共有し、必要な施策・取組を協働で講じていくことで、限りある人的資源を有効に活用し、かつ相乗効果が期待できる。

子どもの頃からの読書習慣の確立は、新しい時代に向かい、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることが出来るための力を育んでいく有効な手段の一つとされる。方針として、文部科学省が示す「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、と静岡県が策定する「本とともにだちプランー静岡県子ども読書活動推進計画」との整合を図り、本市が講じるべき具体的な施策を検討し、策定していく。



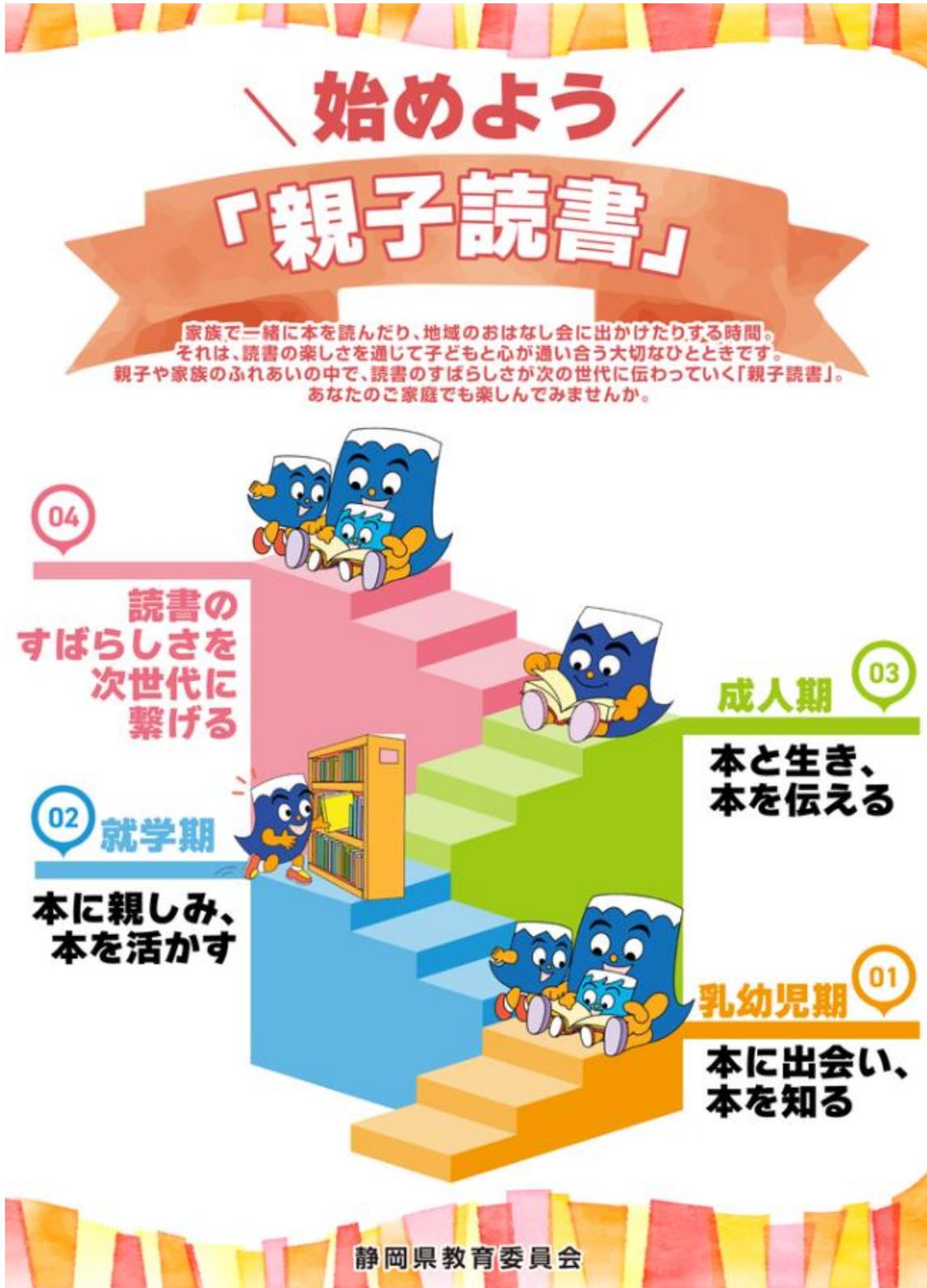
【「本とともにだち」プランー第三次静岡県子ども読書活動推進計画より】

## 「本ともだち」プラン 努力目標（数値目標）一覧

	目標項目	目標値 (2025年)	現状値 (2020年)
1	1週間に1度は家庭や地域で本に親しむ子どもの割合	小 70 % 中 47 % 高 34 % 特 65 %	小 59.2 % 中 42.9 % 高 29.9 % 特 53.8 %
2	1か月の読書冊数	小 7 冊 中 4 冊 高 2 冊	小 5.0 冊 中 3.7 冊 高 1.9 冊
3	保護者に対して子どもの読書活動を啓発している学校等の割合	幼 100 % 小 100 % 中 100 % 特 100 %	幼 98.6 % 小 96.6 % 中 82.9 % 特 75.6 %
4	朝読書、読み聞かせ等全校で取り組む読書活動を実施している学校（特別支援学校は、児童生徒の実態に応じて朝読書、読み聞かせ等の読書活動に取り組む学部）の割合	小 100 % 中 100 % 高 90 % 特 100 %	小 95.9 % 中 92.9 % 高 82.5 % 特 97.3 %
5	図書標準を達成している学校の割合	小 90 % 中 80 %	小 82.5 % 中 59.0 %
6	司書教諭が読書指導や学校図書館の機能を活用した授業の支援等を行う時間を位置付け、実施している学校の割合（12 学級以上の司書教諭発令校を対象とする）	100 %	小 77.5 % 中 68.2 % 高 37.3 % 特 47.6 %
7	学校司書等を配置している学校の割合	90 %	小 86.2 % 中 84.1 % 高 82.3 %
8	「子ども読書の日」（4月23日）、「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）、「読書週間」（10月27日～11月9日）のいずれかに読書啓発（図書館利用指導を含む）に取り組んだ学校、公立図書館の割合	小 100 % 中 100 % 高 75 % 特 90 % 図 100 %	小 91.2 % 中 73.5 % 高 52.9 % 特 78.4 % 図 86.3 %
9	子ども読書アドバイザーとして活動する人の数	250 人	-
10	県内市町立図書館の児童図書の年間貸出冊数（12歳以下の子ども1人あたり）	24 冊	20.8 冊
11	「子ども読書活動推進計画」の見直しをした、または見直しを図っている市町の割合	100 %	85.7 %

参考指標	実績 (2020)
本を読むことが好きだと答える児童・生徒の割合	小 67.2 % 中 69.4 % 高 61.5 % 特 71.8 %
家庭における不読者の割合	小 17.1 % 中 34.0 % 高 48.5 %

【「本ともだち」プラン－第三次静岡県子ども読書活動推進計画より】



【「本ともだち」プランー第三次静岡県子ども読書活動推進計画より】